



ステージに八名さんが登場すると、スタイルの良さが際立ち、会場が歓声と拍手に包まれた

ラスト良ければ全て良し 笑いのある楽しい“楽笑人生”に

役者人生、問もなく60年。悪役俳優として名高い八名信夫さんが仙台市内で開催された「2017いきいきシニア夏まつり」で「出会い、ふれあい、人の味」と題して講演した。プロ野球選手時代や役者人生、あのCMの名言の誕生秘話など、さまざまな話題を披露。独特の間合いと語り口調で、会場の笑いも誘っていた。（1面に関連記事）

いや、楽天（東北楽天ゴールデンイーグルス）強いな。

大学卒業後、プロ野球選手になって腰の骨を折りました。それから映画の世界に入ったんです。最初、俳優は簡単にできると思っていました。ところが、なかなか大きな仕事がない。お金がなく、車を売り、時計も売り、背広も売り：俺、これじゃつぶれると思いつつ俳優を続けました。

本音のCM話題に

ある日、高倉健さんが悪役を打ち倒しているシーンを見ました。主役と近くで打ち合いをする悪役なら顔が映ると思い、監督にこう売り込みました。「体の小さいやつが倒れても、主役が悪役をいじめているように見えます。1対82ある俺が倒れたら迫力があります」。足元にほこりをたくさん巻いて、砂ほこりを上げながら倒れました。そうしたら監督は「お前が死んだら迫力がある」と認めてくれました。

悪役で徐々に知名度が上がって、今回のような講演の仕事も頂くようになりました。全国どこへ行っても必ず聞かれます。「八名さん、青汁って本当にまじいんですか？」って。あれは本当にまじいんです（会場爆笑）。青汁のCM撮影で用意されていたセリフが面白くありませんでした。それで俺は「まじい」って言ったらどうですか」と提案しました。メーカーの方が「正直でいいかも



観客と会話のキャッチボールもしながら温かいトークを繰り広げた

しれませんが、その代わりどこかでフォローしてください」って言うものから、俺は「まじい、もう一杯」って言いました。これが不思議と全国に広まったんですね。いろいろなることをやって、相部屋から一人部屋をもらえるようになりました。「これからは役者人生の始まりだ」と書いて「八名様」と書いてある部屋の扉をバーンと開けました。そうしたら布団が8枚敷いてあった。女中さんが「やなぎま」ではなく「はちめいさま」と読んだ。このときのショックといたらありません。役者としてまだ、と反省しました。

年齢重ね善人役も

そのうち、NHKの連続テレビ小説「純情きらり」での主人公の祖父役など、善人役もするようになり、俳優人生は間もなく60年です。今までの恩をどう返そうか考えるようになりました。特に東日本大震災後はその気が強くなりました。震災後、南相馬市で出会った一人の男の子が「家とおばあちゃんと妹が流されて、見つかっていません。すごく悲しいけれど、僕には古里があります。早く大人になって古里の役に立ちたいです」と話して

くれました。すごくショックでした。俺は皆さんの応援があつて、役者を続けられています。何か恩返しするには映画しかないと考え、脚本を書き、初監督をして映画「おやじの釜めしと編みかけのセーター」を製作しました。

映画には古里の大切さや人への思いやり、家族の絆を描いています。東北の現状を伝えようと、全国で無料上映しました。その場でDVDを販売し、売り上げは被災地の支援金にしました。ところが今は災害が多過ぎます。九州、東北…。地震に限らず豪雨もある。

今年11月には熊本を舞台にした映画の撮影に入ります。被災地にお金を落としたいですから、熊本で撮影します。熊本の皆さんは明るく愉快。でも心の底にある悲しみや苦しみを感じます。熊本は元気に頑張っている、思いやりを大切に、というのを映画で伝えたいと思います。



講演後、観客から照れながら花束を受け取る八名さん

役に立つ長生きを

ただ年を重ね、ただ生きていくだけじゃ駄目。あるおばあちゃんに言われた「人の役に立つための、元気な長生きを考えなきゃ」という言葉が心に残っています。

俺が50歳を過ぎた頃、小学生時代の野球部の監督に掛けてもらった言葉が大きな財産になっています。「お前、何を悩んでいる。56歳には56歳の悩みがある。80歳には80歳の悩みがある。悩みのない人生はない。悩みがあるから人生。でも悩みを持つ全ての人が、悩みを乗り越えられる力があることを忘れるな。ものすごく力になりました。

俺が60代になったとき、大学時代の野球部の監督だった方に「人に好かれるのはいいことだ。でも、好かれようとして生きるな」と言われました。これは人が何かをやってくれるのを待つな、自ら向かえといつこと。

一日をどう楽しく生きるか。俺はよく、楽笑人生と色紙に書いています。笑って楽しい人生。人生、ラスト良ければ全て良し。映画と同じです。一日一日を大切に生きていきたいと思います。